

カに向つて出發しました。

アメリカに着いた英世は、すぐにフレクスナー教授をたずねました。

「フレクスナー先生、日本からきた野口です。先生のところへ研究させてください。」

フレクスナー教授は、ただ、ぼうぜんとして野口の顔を見つめていました。しばらくたつて、

「あ、野口君か、突然でびっくりするよ。いつきたんだね。」

「いま、着いたばかりです。先生の助手にしてください。」

「助手といつても、きみ、すぐにはできないんだよ。」

困こまった顔をして教授は、英世の申し出をことわりました。しかし、住むところもない英世を氣きの毒どくに思つてか、住むところは、さがしてくれました。古ぼけた屋根裏やねうらの部屋です。